

スターチスの萎凋細菌病(新発生)

令和5年7月に胆振地方のハウス栽培のスターチスで、株の半身の下位葉が黄化し葉脈が赤変する症状が発生した。発症株では根や地際の維管束の黒変腐敗が確認され、病勢が進展すると萎凋枯死した。枯死株の茎からは菌泥の流出が確認された。*Burkholderia caryophylli*の選択培地を用いて分離を行ったところ、特徴的な1mm程度の青色、円形、平滑なコロニーを形成する細菌が分離された。分離菌をスターチスに接種したところ原病徴が再現された。分離菌は塩基配列の分子系統解析により *Burkholderia caryophylli* (Burkholder) Yabuuchi, Kosako, Oyaizu, Yano, Hotta, Hashimoto, Ezaki and Arakawa と同定された。

(中央農試、胆振農業改良普及センター東胆振支所)



スターチスの萎凋細菌病（農研本部 小松 原図）